



2023年1月19日放送

## 印象に残る症例①

### 三叉神経領域のかゆみ、痛みに

### 疎経活血湯が有効であった症例

千葉市立海浜病院 耳鼻咽喉科 部長 久満 美奈子

私は耳鼻咽喉科勤務医で、漢方外来として診療しているわけではないので、西洋医学的な治療が第一選択になる疾患はもちろんそれが優先されます。ただ、「検査の結果、病気ではないので様子を見ましょう」「ここまで治療は行ったので、あとの症状は経過をみましよう」など、患者さんの困りごとは解決していないにもかかわらず、西洋医学的には有効な治療方法がないというケースは、診療していてとても心苦しいものです。

また、手術適応がある状態であっても、患者さん本人は手術に積極的でないこともあります。このようなケースで治療の選択肢として漢方薬を提案してみても思った以上に良好な結果を得られることも多いのです。そんな中で、とくに原因不明の頑固な痛みや違和感を訴える患者さんには漢方薬でしか解決できなかったのではないかと考えてしまうほどに、劇的に症状が改善するケースがみられます。

#### 三叉神経領域のかゆみ、痛みに疎経活血湯が有効であった症例

症例1は77歳の女性です。主訴は左鼻の奥の違和感、かゆみです。4年前に左顔面の帯状疱疹に罹患してから、左鼻の奥からのどにかけてのかゆみがつづいているとのことでした。2年前に夫が亡くなるまで介護で疲労がたまっていた。4か月前から体がつらい状態になり、夕方になると横になってしまう。1か月前から食思不振があり、5kg以上体重が減った。消化器内科で上部消化管内視鏡を受けたが、萎縮性胃炎の指摘のみであったとのこと

です。左鼓膜形成術、関節リウマチの既往があり、心療内科より柴胡桂枝乾姜湯を処方されていました。また、水っぱながでるときに小青竜湯を頓用していてよく効くとのことで、漢方薬には比較的なじみがある方のようにでした。

耳鼻咽喉科的所見としては、左耳は鼓膜形成術後ですが、特に異常なし。顔面、鼻、のどに異常所見はありませんでした。帯状疱疹罹患後の三叉神経障害による症状と考えました。

他には聞いてみると、あちこちしんどい、左眼がまぶしい、食思不振、歩くとふらふらするが寝返り寝起きは問題ない、朝は元気で草取り、夕方から疲れてぐったり。クーラーの時期は調子が悪い。鼻のかゆみは入浴するとよくなるとのことで、寒証の症状のようでした。

やせ型で、皮膚はやや乾燥して浅黒く、顔色はくすんだ感じで、舌は湿で薄い白苔、口唇はやや紫が掛かっています。この時は杖歩行でしたが、元来は元気な方のように、話し方には勢いがあります。

今考えると、この方はリウマチの既往があり、温めると鼻の症状が改善する点から、神経痛や関節痛が適応であり、体を温める附子が入った桂枝加朮部湯がファーストチョイスでよかったのではないかとも思いますが、このときは疎経活血湯が頭に浮かんだのです。それは、顔色が悪く、皮膚が乾燥していることから血虚が存在しているだろうと考えたこと、主訴である鼻のかゆみ、違和感は左側にかたよっていること、午前中は比較的調子がよいけれど、夕方以降調子が悪くなるといった傾向で、原典『万病回春』に、疎経活血湯について、「昼軽く、夜重い」は瘀血の兆候であること、痛みは左が強く、また夜間に強くなる傾向がある。と書かれていることを思い出してしまったことから、疎経活血湯も悪くないだろうと連想したわけです。

ただこの方は、これまでに使った薬で強すぎて合わないものが多かったと心配されていたため、初診時は疎経活血湯を単剤で1日1包で試してみました。1か月後の診察では、鼻の違和感の範囲が狭くなったとのことで、疎経活血湯を同量で、更に気虚の症状に対して補中益気湯を頓用で追加して1か月処方したところ、鼻のかゆみはまだ残るものの、以前より軽くなったと手応えのある様子でした。

更に1か月たつと、鼻のかゆみが気にならなくなってきた、手足の冷えがとれた、まぶしいのも少し改善しているとのことでした。庭いじりやリハビリに通う回数を増やすなど、本来の元気が戻ってきて活動的になっていました。

その後は疎経活血湯と補中益気湯、小青竜湯を調子を見て使っていただいています。1年ほど経つと歩行時には杖はいらなくなっていました。

**症例 2** は 69 歳の女性です。主訴は鼻の中の痛みです。

3 年前から鼻の中の痛みがつづいていて、近医耳鼻科をいくつか受診し、抗アレルギー薬やステロイドの点鼻薬、軟膏を処方されたが改善しない。冷たい空気を吸うと鼻の痛みが増悪する。マスクを 2 重にすると少し改善する。かといって加湿器を使うと空気が冷たくて余計に症状が増悪するといいます。鼻の痛みは主に右側だが左側も痛むことがある。ひどいと頭痛もでてくる。アセトアミノフェンを 1 日 2 回～4 回飲んでいるとのことでした。

前医でのアレルギー検査は RAST 全て陰性、鼻内所見には特に異常はなく、アロディニアはありません。副鼻腔 CT と頭部 MRI には異常はなく、副鼻腔炎による痛みや器質的な異常を伴う神経障害ではありませんでした。

既往歴は骨粗鬆症ぐらいで、酒、たばこはたしなみません。

色白、やや太り気味の方です。

三叉神経痛に類似した状態と解釈し、五苓散または耳鼻咽喉科領域の痛みによく効く葛根湯を処方してみようかと考えましたが、以前に症例 1 の方の鼻のかゆみ、違和感に疎経活血湯が有効であったことを思い出し、ひとまず疎経活血湯を試してみることにしました。

疎経活血湯を 3 包/日で 1 週間処方したところ、マスクなしで外出できるようになったことで、手ごたえがありそうでしたので、つづけて 1 か月処方しました。1 か月後には痛みが良くなってきたので、2 包/日に減らしています、とのことでした。さらに 1 か月分処方すると、その次の診察時には「痛みが治まった」と症状は著明改善しており、内服は終了としました。

疎経活血湯には 17 種類と多くの生薬が含まれています。当帰・芍薬・川芎・地黄の四物湯に桃仁・牛膝を加え、駆瘀血作用を強化したものと考えられます。さらに祛風湿薬と利水薬が含まれています。

主薬で祛風湿の防風・防己・姜活・威靈仙・百芷が、筋肉や関節のしびれ、痛みを去り、蒼朮・茯苓の利水作用で浮腫を除き、桃仁・牛膝で血行促進し、祛風湿の鎮痛作用を助けます。竜胆は消炎、鎮痛に働き、四物湯で神経、筋肉を滋養して機能の回復を助け、血行を促進します。また、芍薬・甘草が筋肉のけいれんを緩め、陳皮・生姜・甘草で胃腸機能も整えます。

三叉神経痛の治療としては、一般的には神経ブロックやカルバマゼピンなどの薬物治療になりますが、漢方薬によって効果が見られた症例の報告も多数あります。神経痛には五苓散などの利水薬が用いられることが多く、特に上半身の神経痛や三叉神経痛には、急性期のものに対しては葛根湯、冷えが強ければ桂枝加朮附湯や当帰四逆加呉茱萸生姜湯、麻黄附子細辛湯などがよいだろうと思われれます。また口腔内にトリガーゾーンのある三叉神経痛には立効散が効果的との報告があります。

急性期の症状なのか、長期に及ぶ症状なのか。上半身の症状なのか、下半身の症状なのか。なども処方を選ぶカギとなりますし、ほとんどの場合には水滯や冷えの要素がからんでくると思われます。また、長期にわたる痛みに悩まされ、気虚・気鬱状態になってしまっている方も多く、こちらに対応する処方も追加していくことも必要だと考えます。長らく悩んだ痛みが解消されたときには、患者さんはとても喜んでくださいますので、今後も勉強していきたいと思います。